

研究課題 (テーマ)		職業感染防止における看護職者の感染予防行動に関する研究	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部・看護学科	准教授	城戸口親史
分担者			
研究結果の概要			
<p>渡邊ら (2018) は、周産期看護従事者の職業感染対策に関する教育状況、血液・体液暴露の実態として、血液・体液暴露機会が多く職業感染対策は十分ではないと報告している。また、Manal (2019) らは、知識と実践には適切なトレーニングの重要性について、Louise (2019)、Jos (2020) らは、個人防護具の使用において、効果的な評価、様々な臨床でのシナリオによる対応の必要性が示されている。そして、看護職者の職業感染事故防止のためには、適切な職業感染予防行動が実践できるよう、必要な知識・認識およびケア技術を身につけていることが求められる。しかし、実践場面では様々な要因が重なることで職業感染事故防止に十分に取り組みなくなる課題が残っている。COVID-19 感染流行が続く現在、看護職者を取り巻く職場環境に加え、看護職者が職業感染事故防止に向け常に思考して実践でき、どのような場面においても適切な職業感染予防行動が実践できるよう、必要な知識・認識およびケア技術を身につけていることが求められる。そこで、今回、職業感染事故防止に貢献するため、適切な看護実践プロセスを妨げる個人的要因を明らかにすることを目的に研究を行った。</p> <p>令和3年度は、看護職者の看護実践場面での医療関連感染防止の取り組み状況、感染予防行動に関する知識・技術、看護ケア実践時の身体的・心理的状态についての質問紙の検討を行うこととし、質問紙の作成を行った。質問紙の具体的な内容については、現在取り組み段階のためすべて記載することはできないが、個人の失敗のしやすさや、不安状態を測定し現状を明らかにする質問紙を作成した。</p>			
今後の展開			
<p>現在は、作成した質問紙の妥当性を評価するため、倫理審査に入りプレテストを行う予定である。プレテスト依頼施設についてはすでに連絡を取った段階であり、倫理審査終了後に調査の説明と質問紙調査を行う予定である。さらに、プレテスト実施後は、広く富山県内医療機関、施設に調査を依頼し実態を博していく予定である。</p>			